

13年度に検討を始め、14年度にシステムを立ち上げることが明確となったなどの理由から、地域内での情報ネットワークをめざすこととなった。その理由は、地域固有の問題や特有の機関があること、更に通信においてはお互いに顔を知っている利点があるなどである。地域において危機管理のポータルサイト的な役割（入り口ホームページとしての役割）を果たすモデルを作ろうと試みたのである。構成要素として3つを考えた。すなわち、データベース、リンク、通信である。

データベースとしては、大阪府立公衆衛生研究所や府内保健所の保有する一次情報をこれに当てた。情報は収集するだけでなく、公的機関としては発信する責任もあるので、専門知識を生かした危機管理に関係する一次情報の作成にはできるだけ努力をする必要があると考えている。

またリンクは機関そのものにリンクする場合と、内容の一部にリンクする二種類がある。これについては関連の機関のホームページについてその内容を詳しく検討した。危機管理という面から見ると、現在厚生労働省と医薬品食品衛生研究所の危機管理ホームページが最も包括的なものであるが、この他にもいくつかのものが精力的にデータやリンクの収集をしていたのでこれらを掲載した。ポータルサイトに優れたリンクが張られていた場合、それは情報検索に極めて有用であるが、定期的に更新の手続きをしないと、デッドリンクが増えることになる。

最後に通信であるが、現在の方式としては、メーリングリストと掲示板の2種類に大きく分かれる。いずれも長所、短所があるが、先ずメーリングリストは秘匿性が高いこと、必ず届くことがあげられる。しかし、発信数が多すぎる場合や玉石の情報が混交する場合は、煩わしくなって読まない可能性がある。一方、掲示板は読みに行かないと情報に接することができないが、情報を選択できること、また分野別に

分類されている場合は検索が便利などの利点がある。通信機能の構築は次年度からを考えているがこの両者の長所を生かしたものにしたいと考えている。

3) ホームページの内容

発信する情報・データベースとしては、大阪府立公衆衛生研究所のサーバー内にある関連の情報を整理して掲載した。その内容は以下のようなものである。

健康危機管理事例集、細菌性食中毒、結核、セアカゴケグモ、レジオネラ症、クリプトスポリジウム、O-157、雪印乳業事件、炭疽菌検査方法、ダイオキシン、環境ホルモンなどの具体的事例の他、健康危機管理ガイドライン、関連する研究班の報告書等

また都道府県、保健所、地方衛生研究所の住所、電話、ファックスを一覧表として掲載し、ホームページのあるものについてはリンクを張った。

リンク先としては、健康危機管理を目的としたものとして、厚生労働省、国立医薬品食品衛生研究所、地方衛生研究所HP、日本中毒情報センター、保健所・保健センターの検索ページ、保健活動のひろば、公衆衛生ネットワーク等を選んだ。また、各省庁、国立試験研究機関、関連の法人、学会、諸外国の機関を選んだ。

通信については、現在構築中であるが、基本的には地域内の保健医療行政に関わるクロードメンバーを次年度より募集して、メーリングリストに基づく情報の共有、質疑、提案等を行い、その内容については掲示板に残していくという形式を考えている。数年前に、パソコン通信を行ったが、今回もその経験を生かしていきたいと考えている。

構築中のホームページのトップページおよび会議室への投稿画面を図1および図2に例示する。

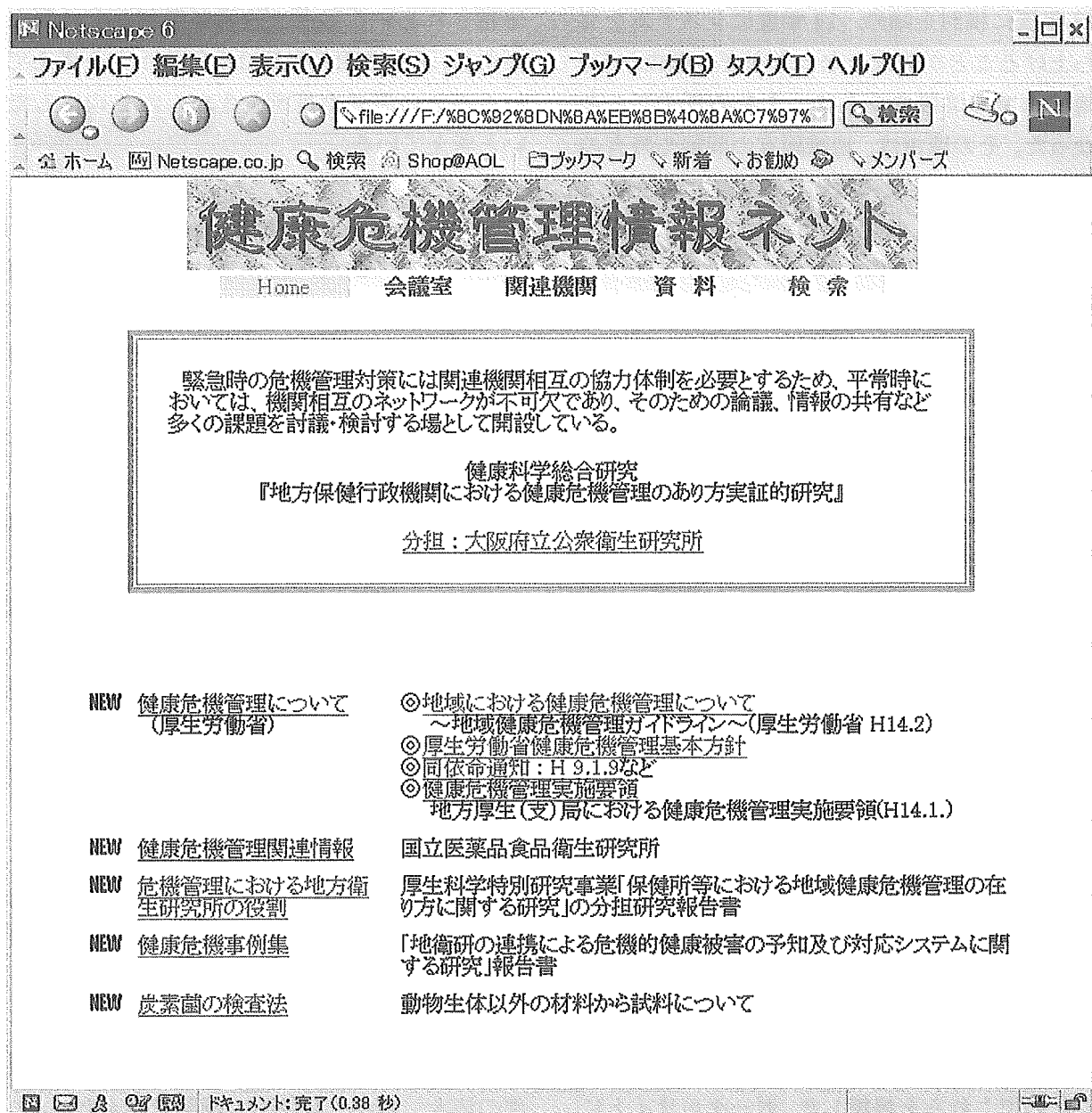


図 1. 構築中の危機管理ホームページのトップページ

(注) 見出し「健康危機管理情報ネット」の下段のサブページの案内の各々の内容は以下のとおりである。

- ・ Home は現在表示中（上記）の健康危機管理トップページ
- ・ 会議室は、クローズド。但し、メンバー外からの投稿などを受けける欄を設置。
- ・ 関連機関は国内の政府関連機関・研究所，地方衛生研究所・保健所などの所在地，連絡先およびホームページ（リンク），主要な情報発信元（リンク），海外の関連機関（リンク）など
- ・ 資料は各種情報とデータベース

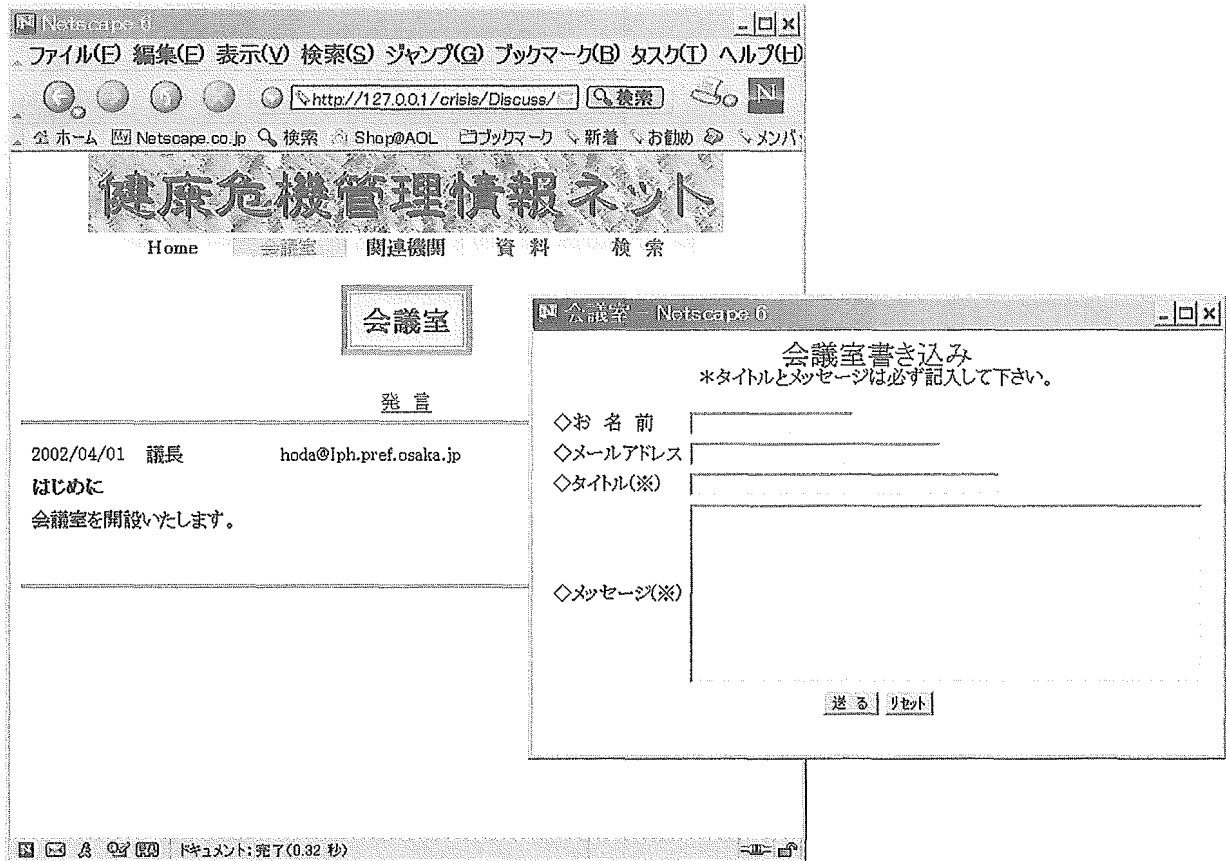


図 2. 会議室への書き込み画面の表示例